

羅 針 盤			関係する 分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己 評価	外部アン ケート等	総合			
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	①保護者会、学校参観、はるな祭、授業参観週間等、学校公開の機会を年3回以上実施し、参加した保護者の85%以上から満足を得ている。	教務部	①授業参観、作業週間、授業参観週間、各行事等、保護者等に学校の教育活動を見ていただく機会を設け、実施する。 ②PTA保護者会、学部・学年の保護者会や面談等とおし、学校、学部や学級の方針を説明すると共に、保護者等から直接意見や要望を伺う機会とする。	B	A	A	各行事について、計画通り、学校公開の機会を年3回以上設けることができ、85%以上の保護者からも満足を得ることができた。 各行事についてアンケートを実施し、結果をまとめたり、係で話し合ったりすることによって、次年度の課題を明確にすることができた。	自分の子どもの頃より、みんな、おとなしい。いい子だった。指示が通っている。 先生方もご苦労されている。障害ではなく個性という言い方をしている。学校は社会にできるための大事な役割であると思う。 とても温かい雰囲気のある学校さんだと感じました。これも先生方が日頃、児童生徒の皆さんと真摯に向き合い、ご指導・支援をされているからだと思いました。 (はるな祭は)タイムテーブルの都合だと思うが、児童・生徒がステージ発表を見ていないのは不思議に思った。特に金曜日は見る人が少なく、さみしかった。また、校内を見てまわったり、買物や体験コーナー、スタンプラリーなど参加している姿もなく、子供たちは何をしていたのでしょうか。楽しみにしていたのでしょうか。 はるな祭での同窓会の発表も、在校生へ向けてのメッセージかと思っていたが、在校生はいないようだったので、保護者向けの発表だったのか・・・高等部の販売が午前中だけだったので混雑していたような気がした。 はるな祭のステージ発表で出番を待つ時間が長く、舞台裏で待たせるのは大変だと思った。 はるな祭について、同窓会の案内が届くのが遅かった人がいたらしく、仕事の休みがとれず、来校することができなかった人がいたらしく、同窓会は9:30~13:30ということだったが、午後も見たい人もいたようだ。 はるな祭の詳細はホームページ参照となっていたが、ホームページにはのっていないなかった。 卒業してしまうと、卒業生(保護者含)は会う機会がないので、このように行事で会える機会を作ってもらえるのはありがたいです。	今後も、できるだけ多くの保護者等が参加できるよう、行事の日時や実施方法について検討していく。行事がよりよいものになるように、実施する中心となる分掌から、アンケートの結果を全教職員に周知して、検討しつつ次年度へつなげていく。行事を実施する際は、アンケートを実施することを継続し、保護者が意見を出しやすいようにする。
		②学校からの各種たよりやホームページで情報発信を行い、85%以上から肯定的な評価を得ている。	渉外部	①保護者や関係機関の方が知りたい情報を収集することに努め、係で内容を検討し、発信する。 ②校門脇の掲示板、町内の回覧板、ホームページを利用し、学校行事や教育活動の様子がわかるようにする。	B	A	A	保護者の方からは94.3%満足を得ることができた。保護者の方々にとって学校からの各種たよりやホームページは、子供たちの学校での様子や先々の見通しを知る手がかりとして関心が高いことがうかがえる。また、今年度は多くの行事が予定通り実施でき、その様子を各種たよりやホームページ等に掲載できたことも満足度につながったのではないかなと思う。	分かりやすい資料で、見やすい。文章に残すのはよい。時折見て、思い返すとよいと思う。「すべてを子どもたちのために」はキュンとするキャッチフレーズである。「建設的な『言える化』も中々おもしろいフレーズだ。非常によいフレーズだと思った。 同窓会20歳を祝う会に参加した方から、担当の子の名前を呼んでくれたり、盛り上げたりしてくださって嬉しかったと聞いている。地域の祝う会には中々参加できないので、やってもらえるのは有難いと思ったとのこと。声を掛けてもらえて嬉しかった。 はるな祭の体験の発表はおもしろかった。活動内容を来場者向けに見せるよう、繰り返し再生等の動きがあると違う。一年間の活動を要所、要所に置いておく。見られると思う。地域でも映像を映しておくことで、こうう取組をしていると足を止めてもらえるように、地域どこかに置かしてもらうのもよいのではないかな。ホームページは関係者しか見ない、もつとつと発信するとよい。 寄宿舎で、日々、連絡ノートを活用しているということであるが、最近は、保育園などでも日々の連絡もタブレットで行っている。日々、映像を送ることで、アルバムはなくなったところもある。施設でも利用者の健康観察をタブレットで家庭に見られるようにしている。段々とそういったデジタル化も必要になってくるのではないかな。県でもインクルーシブ教育、非認知能力を掲げているので、特別支援学校のあり方も変わるのではないかな。 郵便局に、作品が展示してある。そういうところに出したらどうか。できあがった時とか、月替わりに出すとか。それらが、文化祭に飾る作品になってもいい。そうすれば、地域の人たちが見る機会がある。発信ができる。	今後も、保護者や関係機関の声に耳を傾け、有用な情報を収集することに努め、内容を検討し、掲示板、回覧板、ホームページを活用して情報発信していく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③一人一人の実態に応じた教育計画を策定し、その実践に努めていると保護者等の80%以上から肯定的な評価を得ている。	教務部	①個別目標の達成を図ることができるよう、「何ができるようになるのか」「そのために何を学ぶのか」「それはどのように学ぶのか」について、保護者会や面談、学校評議員会等で説明し、意見をうかがいしつつ丁寧に検討し、教育計画を策定、実施する。	B	A	A	一人一人の実態に応じた教育計画となっているのか、目標、手立て、評価について、教科や学年等で、検討して、策定することができた。		今後も一人一人の実態に応じた教育計画となっているのか、目標、手立て、評価について、教科等や学年で定期的に検討するようにする。指導について、保護者に理解と協力が得られるように、保護者会や面談等で丁寧に説明していく。

II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④地域の特別支援を要する乳幼児・小中学校等の児童生徒の支援を年間のべ200名以上実施する。	地域支援部	①関係する機関と連携しながら、訪問相談や電話相談、メール相談、来校による発達相談を実施し、継続的な支援を行う。	B	B	B	本校が特別支援に関するセンター的な役割を担っていることを、約7割の教職員が意識することができた。地域の園や学校への支援についても、知っている保護者が多かった。	1月末現在の支援はのべ188人、職員研修等の講師の依頼は6件、授業研究会の指導講師が1件であった。発達相談は4人が継続して来校している。教職員全員で協力しながら進めていきたい。										
		⑤特別支援教育への理解を促すため、地域の保育園、幼稚園、子ども園、小中学校等を対象とした学校公開を年間2回以上実施する。	地域支援部	①学校公開日を設定し、説明会や授業参観、個別相談等を実施する。	B	B	B	学校参観や学校公開については、約7割の教職員が協力して業務を行えたと回答している。直接的な役割がなかった教職員にも、授業公開を通して、本校の取り組みを伝える機会を提供していただくことができた。保護者も9割弱が特別支援教育に関する情報提供を行っていることについて知っているかと回答している。	教職員のアンケートでは、「該当なし」と回答した教職員が四分の一いた。教職員が色々な場面で関わり、役割を果たしていることについて、周知できたらよい。										
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑥学年会や学習グループ等の会議で、個別の指導計画の目標を設定し、目標達成のための具体的な指導内容を精選したり、指導の評価を行い、指導の改善や目標の見直しをしたりする機会を、年間で3回以上設けている。	学習指導部	①学年会や学習グループ等の会議で、個別の指導計画の目標を具体的に達成するために、一人一人に応じた指導内容を検討するとともに、目標や手立ての見直しをする機会を設ける。	B	B	B	学年会や学習指導グループ等の会議において個別の指導計画の内容を検討する機会を設けることができたという回答が1回目から2回目にかけて増加し、約8割の職員から肯定的な評価を得るとともに、否定的な評価も少なくなるなど、教員が指導を振り返る時間が増加している。	授業にスクリーンやタブレットを使っていた。主に連絡ノートで家庭との連絡を密にしていると思うが、他校ではタブレットを持ち帰って、タブレットで家庭との連絡をとっている。 活動を写真で撮る一家庭で見ると安心となる。ノートに書くことの省略にもなる。施設でも今、共同スマホで入力している。ICT機器を利用して、そういうのもよいのではないかと。 今年は暑さが厳しく、農業分野の作業学習が大変だったと思いますが、だいこん以外のお野菜やお花の販売があったらよかったと思います。種まきから収穫までの一連の作業を録画して、訪れてくれた人々に見ていただく、過程から見える内容にするというのはいかがでしょうか。玄間に設置(ウエルカムビデオ)。学びの拠り所として、国語や算数・数学、理科、社会(流通・経済)等々、広がるのではないかと。 小学部は明るくなってイメージが変わった。いい雰囲気である。子供達も落ち着いている。先生方が個々に目を配っているのを感じる。 丁寧な説明で、細かくご指導されているのを実感できた。去年とは変わったという印象があった。一人一人への向き合い方が違っているのかな、細かくやられているのを感じた。素晴らしい学校になった。主体的ことよく言うが、活動しない主体的もある。見えないところでの役割が主体的ということもある。そういう働きかけも必要なのではないかと思う。 小学部、中学部、高等部の交流があるとよい。常に交流が自然にできる環境があるとまた違うのかと思った。 個々に応じた細かな指導をされている、子供達が生き生きとしていた。	児童生徒の実態について学級や学年の垣根を越えて共有し、教員間で相互理解を図ることでチームティーチング等の効果的な指導を行うため、指導内容を整理したり、個別の指導計画を活用したりする具体的な方法を検討し、提案する。									
											5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑦年間指導計画に掲げた目標の達成率が75%以上である。	学習指導部	①毎学期3回以上、個別の指導計画の目標到達度を確認し、年間指導計画の目標到達度に照らし合わせ、達成率を確認する機会を設ける。 ②学年会や学習グループ等の会議で、個に応じた指導方法を見直す機会を設ける。	B	B	B	1回目から2回目にかけて肯定的な評価の割合が増加した一方で、達成率の確認や指導方法の見直しをする機会を十分に設けられなかったとする回答も増加しているため、方法や手段を見直す必要がある。	指導計画や指導方法の見直しをする具体的かつ習慣的な方法を検討するとともに、ICTを活用した効率的な情報共有の方法を提案できるようにする。
											6 児童生徒の発達段階や生活年齢、ニーズに応じた授業実践や寄宿舎生活を送るための研修が行われていますか。	⑧年間をとって、研修への取り組みに対し、80%以上から肯定的な評価を得ている。	研修部	①児童生徒の発達段階や生活年齢、ニーズに応じた授業を実践するために、かかわりや日ごろの生活の中で見られる姿から考えられる認知水準や社会性等などに着目した研修を行ったり、学部を縦割りにしたグループを編成して、さまざまな学部の実践を伝え合い、共有する。 ②寄宿舎では、指導員にアンケートを取り、日ごろの業務の中から必要となる項目を厳選して、研修を実施する。	B	A	A	今年度のグループ研修は、小学部・中学部・高等部・訪問部で行うことができ、児童生徒の発達段階や生活年齢を捉えるための研修を全体や各部署で行ったり、ICTを活用した研修を学部を縦割りにしたグループで研修したりすることができた。 寄宿舎では、実情に合う研修を実施するために、それぞれの指導員にアンケートを取り、すぐに業務に生かせる研修を行うことができた。 グループ研修では、2年計画の2年目ということもあり、多くの教職員が研修の進め方を把握したり、日々の業務への生かし方を認識したりすることができたと考える。また、児童生徒の実態を捉えるための研修(太田ステージ評価等)を行うことで、おおよそ実態を客観的に捉えることができ、現在の学習を見直したり、新たな授業づくりに生かしたりするきっかけになったのではないかと考える。 以上の結果から、一年をとって90.6%の肯定的な評価を得ることができた。	多くの教職員が日々の業務に生かすことができる研修を実施するために、今までの積み重ねてきた研修を生かしつつ、職員の実態を捉えながら、来年度の研修を設定する。 また、「働き方改革」の観点を踏まえながら、これらの研修を効率的かつ効果的にできるよう、内容や日程を再度検討し、職員が大きな負担を感じないよう配慮していく。

IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上から理解を得ている。	保健安全部	①児童生徒の健康状態について、日頃から担任・保護者間で情報交換を密にし、連携して基本的生活習慣の確立を目指す。 ②定期健康診断、学校保健委員会、日常的な校医からの指導助言を日々の児童生徒への指導や対応に生かす。 ③ホームページや朝会連絡、連絡帳や電話連絡等で、感染症予防や健康に関する情報提供を行い、保護者と相互に情報交換が行えるようにする。 ④手洗い・手指消毒・マスクの使用・うがいなどを習慣化し、検温・健康観察・換気・消毒、3密を避けるなどを徹底して感染拡大の予防に努める。 ⑤食物アレルギーの対応について学校全体で組織的に取り組む。	A	A	A	職員間で感染症対策を共有し、コロナやインフルエンザの集団感染を引き起こすことなく児童生徒の学校生活を守ることができたため、保護者の94.3%から理解を得ることができたと思われる。	基本的な感染症対策を続け、感染症拡大の予防に努める。日常生活の指導等を通じて、児童生徒自身の健康を守る意識作りを継続指導していく。
	8 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑩危機対応マニュアルを教職員が十分周知し、教職員・保護者双方から80%以上の満足を得ている。	生徒指導部	①危機対応マニュアルに基づいた緊急時の対応訓練を年間10回以上実施するとともに、災害時引渡し訓練の定着を図る。また、マニュアルの点検・見直しを随時図る。 ②教職員は来校者証着用の確認を行うとともに挨拶や声かけを励行し、来校者のチェックを習慣化することで、学校安全に努める。 ③緊急時の対応訓練の際は、学級通信や連絡帳で保護者へその目的や内容について伝え、共通理解を図る。	B	B	B	新年度が始まる前に、危機対応マニュアルを全教職員で確認した。また、2学期の不審者対応避難訓練の際にも、再度危機対応マニュアルを全職員が確認し、訓練に参加することができた。	不審者対応避難訓練実施時に、危機対応マニュアルを再度確認したが、訓練時だけでなく、必要に応じて点検・見直しを実施する。また、新年度に来校者証着用の徹底を保護者へ再度周知し、安全に努められるようにする。
		⑪いじめの防止、早期発見に組織的に対応するために、全職員に向けて、いじめに関する校内研修を年間2回以上実施する。	生徒指導部	①いじめ防止対策推進法を基に、全職員のいじめに対する意識及び知見の向上を目指し、校内研修を計画的かつ定期的実施する。	B	A	B	各学期に1回、いじめに関する校内研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を向上させることができた。報連相シート等を活用し、学年や学部の中で情報共有を徹底し、一人を抱えない組織での対応をすることができた。	今年度と同様にGoogleフォームを併用しながら、いじめに対して職員の意識向上できる新たな校内研修を計画していく。
	9 安心安全な給食の実現のため、関係者の連携やお知らせを十分にを行っていますか。	⑫献立に保護者及び関係者の90%以上が満足している。	保健安全部	①給食献立を毎月詳細に知らせる。 ②アンケート等の実施により、メニュー開発や調理の改善を実施する。 ③県のマニュアルに基づき、安全衛生対策を徹底する。	A	B	A	コロナ禍で中止になっていた保護者を対象にした給食試食会を4年ぶりに行う事ができた。	子どもたちが普段学校でどんなものを食べているのか興味を持っている保護者もいるはずなので、小学部だけではなく他の学部でも試食会をしてもよいのかもしれない。
	⑬食物アレルギー等の対応について該当保護者の90%以上が満足している。	保健安全部	①関係職員及び保護者との話し合いを行い状況を把握する。 ②食物アレルギーの状況に応じ、適した対応を提案・実現する。 ③校外学習、宿泊行事、調理実習等の食事では、事前にメニューを確認し、保護者と相談する。	A	B	A	大きな事故もなくアレルギー対応をすることができた。	アレルギー対応のシミュレーションについては市年度当初である4月の中旬にしているのだが、実際にアレルギー対応をするのは5月以降のため、どう動くべきか忘れてしまっている職員がわずかに見受けられた。学期の途中であっても短時間でアレルギーの対応をどうしたらよいか確認できる仕組みがあってもよいかもしれない。	

V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	10 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑭キャリア教育全体計画を基に、児童生徒一人一人のキャリア発達に応じた支援を職員の80%以上が意識して日々の実践を行っている。	進路指導部	①キャリア教育についての職員研修や資料による周知をし、キャリア教育についての共通理解を深める。 ②高等部卒業後の進路先についての情報提供や校内研修を通して、生徒がどんな進路を選択したかや、どのような進路先の候補があるのかについて共通理解を図ることで、卒業までに身につけたい力について検討できるようにし、系統的な指導を行えるようにする。	B	B	B	校内研修を通して、高等部卒業後の進路について理解を深めることができた。卒業後の生活をイメージして、それぞれの学部で今どんな力を身につけていったらいいか考える機会とすることができた。	この学校は自然に恵まれている。自然への気づきがこういふ中だからこそある。不便という方もいるが、不便さの中にアイデアは湧いてくるものだ。自然の中での地域のよさがある。地域に出て行っているところがいい。どう対応できるのかの力を付けることが、分かるところがいいと思う。	今後も、校内研修等を通して情報を発信していくことで、キャリア教育について理解を深めていくとともに、それぞれの発達段階で何を身につけていったらよいか考えられる機会を提供していきたい。
	11 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑮進路先、支援機関等の関係機関との情報交換を年間5回以上実施する。それらで得られた情報等を伝える場として、年に2回保護者向けの進路ガイダンスを行い、保護者の70%以上が参加する。	進路指導部	①高等部3学年を対象に移行支援連絡会を実施し、卒業後の生活にスムーズに移行できるようにする。 ②進路先訪問、現場実習巡回指導にて情報交換の機会を持つ。 ③渋川・利根沼田・吾妻地域の自立支援協議会に参加し、各地域の関係期間との情報交換を行う。 ④進路に関心ももてるようなガイダンスを実施するとともに、その内容を進路だよりとして発行し、配付とHPへの掲載により周知を図る。	B	A	A	現場実習の打合せなど、関係機関との情報交換に、該当する多くの保護者の方に参加していただき、学校、保護者、関係機関が連携して進路指導を行うことができた。 進路ガイダンスについては、保護者の方にとってより有益な行事となるように、内容や講師について精査し、実施することができた。		進路ガイダンスについては、参加される保護者が固定化されてきている。より多くの方が参加できるように、内容をより充実させたり、実施日や実施方法について工夫をしていきたい。
VI 自立に向けた生活指導・支援を行っていますか。	12 寄宿舎指導員が保護者や教職員と連携を図りながら、寄宿舎生が安心・安全な寄宿舎生活を送るよう対応していますか。	⑯連絡・報告・相談を綿密に行い、連携に努めていると、保護者や教職員の90%以上から評価を得ている。	寮務部	①速やかに、きめ細かく正確に関係職員と情報交換する。 ②手引きに則り、寄宿舎生の体調の変化を保護者へ速やかに電話で連絡・報告し、その後の対応について相談する。 ③迅速に生徒の指導に生かすため、舎監は朝会で寄宿舎生の健康面、行動面についての報告を行う。	B	A	A	安心・安全に気を配りながら手引きに沿って連絡・報告・相談を綿密に行うことを心掛け運営を行った。保護者、教職員から90%以上の評価を得ることができた。		保護者、教職員への細かな連絡の徹底や対応の仕方についての確認等をその都度行い、関係者と丁寧に連絡を取りながら連携を図っていく必要がある。
	13 寄宿舎指導員が保護者や教職員と連携を図りながら、寄宿舎生の個に応じた対応をしていますか。	⑰連絡・報告・相談を綿密に行い、連携に努めていると、保護者や教職員の90%以上から評価を得ている。	寮務部	①「寄宿舎生活の様子」について作成・修正し、寄宿舎生の実態について保護者や教職員と共通理解を図り、連携しながら個々に応じた指導を行う。 ②棟だよりを毎月発行し、寄宿舎生活の様子や生活支援方針を保護者や学級担任に伝える。 ③寄宿舎参観や、必要に応じて個別面談を行う。 ④それぞれの舎生の実態に応じて、柔軟な受け入れ体制をとる。	B	A	A	日々の連絡ノートや棟だより、顔を合わせた際の情報交換や寄宿舎生活の様子の作成を行い、連絡・報告・相談を綿密に行うよう運営を行った。保護者、教職員から90%以上の評価を得ることができた。		連絡ノートや棟だよりを通じて日々の様子を伝えることや、寄宿舎生活の様子を活用して成長の様子を確認していくとともに、ホームページでのブログ発信の継続や個々の実態に応じた柔軟な対応を保護者、教職員と連携しながら引き続き行っていくいきたい。
VII 安心・安全な学校の維持に努めていますか。	14 施設・設備は、関係者と連携を図り、適切に管理が行われていますか。	⑱安全に配慮した維持管理が実施されていると、利用者の85%以上から評価を得ている。	事務部	①職員一人一人が、日頃から清掃や点検を適切に実施し、施設・設備の実態把握に努め、異常等に早期に気付けるようにしておく。 ②特に児童生徒の安全に関わることは職員間で情報共有し、可能な限り迅速に対応する。	A	A	B	清掃や点検等の結果や突発的に生じた不具合箇所等を職員間で情報共有し、注意喚起したり、修繕等へ繋げたりすることができた。 ただし、降雪時の対応について認識の甘さがあったので、総合評価はBとした。		引き続き安全に留意しつつ、誰もが気持ちよく利用することができる快適さも追求していく。 校内の危険箇所等の情報について、職員間で引継ぎ共通理解していく。
	15 登下校、校外学習時のバス利用について、関係者との連携のもとに適切な運行が行われていますか。	⑲乗務員、職員、保護者の連携は適切であると、関係者の90%以上から評価を得ている。	事務部	①関係者から子どもの状況を聴取し、身体状況等に応じた介助対応を行う。 ②乗車する児童生徒の状況を理解しておくと共に、天候や路面状況、交通事情等に応じた運転を行う。	A	A	B	日々行っている運行車両の安全点検や安全対策、引継ぎ等による職員間の情報共有により、また、継続した感染症対策や置き去り防止対策の実施により、安心・安全な運行を確保した。 ただし、雪によるスリップ事故があったため、総合評価はBとした。		来年度は感染症対策による増便運行がなくなるため、車両1台への乗車人数が増え、それに対応する必要がある。引き続き児童生徒が安全に乗車できるよう、関係者で方策を整え、保護者の理解、協力を得ながら運行する。 荒天時の運行について特に留意していく。
	16 計画的、効率的な予算執行を行っていますか。	⑳効果的に予算が執行されていると、職員の85%以上が感じている。	事務部	①省エネやゴミ減量により、光熱水費等の固定経費を減らし、教材等購入予算の確保に努める。 ②事業予算は、計画に基づき、関係職員との連絡調整を密にしながら適切な執行を行う。	A	A	A	職員の要望等を加味した執行計画に基づき、予算の状況を見ながら、学校運営を意識した予算執行が概ねできた。		予算増が見込めない中、物価高が続く状況なので、より精査し計画的な予算執行が重要となる。もっと職員に予算を意識してもらえよう、執行内容を周知するとともに、省エネや節電等をさらに推進していく必要がある。